

世界 LNG 動向 2022 年 9 月

橋本裕*

はじめに

2022 年 8 月分の日本の LNG 平均輸入価格は、円建てでトン当たり 139,371 円と、2022 年 7 月分に続き、史上最高を更新し、2022 年だけで 4 度目の最高水準更新となった。米ドル建てでも 2012 年 7 月の過去最高を 10 年振りに更新して、100 万 Btu 当たり 20 米ドル近くとなった。この中でロシア産は、全体平均より 5 米ドル程度安い。

ロシア産ガス供給をめぐる不確実性が、太平洋地域、欧州地域で続いている。バルト海底経由でロシアとドイツを結ぶ Nord Stream パイプラインを通じてのガス供給は、8 月末のメンテナンス停止後復帰しない中で、9 月 26 日の同パイプライン破壊・漏洩事件により、同ルートでのガス供給再開の見込みは当面、潰えた。

ロシア東部 Sakhalin 2 LNG プロジェクトを引き継ぐ新法人に、日本企業 2 社は参加したが、Shell は参加しなかった。ロシア連邦政府指令によると、同プロジェクトで従来同社が有していた 27.5%を引き継ぐ基準は、容量年間 400 万トン分以上の LNG 生産プロジェクトを操業する経験を持ち、累計生産が 4000 万トンを超えていなくてはならないとされ、豊富な LNG 事業経験が前提となる。

豪州政府は、東部 LNG 輸出企業 3 社と国内市場向けガス供給確保策に合意する HOA（基本合意書）を締結したことを発表した。3 社は 2023 年に合計 157 PJ（LNG 換算 288 万トン相当）の国内市場向け追加供給を提案、競争監督機関 ACCC による 2023 年 56 PJ 不足の予測分を確保したこととなる。既存の LNG 輸出版売契約を尊重することを、豪州政府関係者は度々強調しており、今回の発表もその方針に沿ったものである。今回の自主的な HOA 締結により、「国内ガス供給セキュリティ制度」（ADGSM）を発動する必要がなくなったと説明している。自主的取り組みを政府が認めることにより、悪影響を伴いかねない強権発動を回避したともいえる。

西豪州では、Woodside 社が、沖合 Browse ガス田群からの原料ガスを、North West Shelf LNG（NWS）プロジェクト向けに供給する開発・パイプライン計画に関して、環境影響評価（EIS）を公表した。生産規模は LNG、LPG、国内市場向けガス供給を合わせて年間 1140 万トン規模を見込んでいる。

* 化石エネルギー・国際協力ユニット ガスグループ

[アジア太平洋]

経済産業省 (METI) は、2022 年 9 月 29 日、JBIC が日本企業の LNG 調達を支援することを明らかにした。

苫小牧港管理組合、石油資源開発株式会社 (JAPEX) は、2022 年 9 月 8 日、北海道・苫小牧港において、Truck to Ship 方式による LNG バンカリングトライアルを実施したことを発表した。LNG 燃料タグボート「いしん」を保有する株式会社商船三井と「いしん」を運航する日本栄船株式会社、海事コンサルティングを行う MOL マリン&エンジニアリング株式会社の協力の元、実施した。

フィリピン First Gen Corporation 子会社 FGEN LNG Corporation は、バタンガス市に、暫定洋上 LNG 受入基地を開発している。2023 年第 1 四半期末までに完成を予定している。

株式会社商船三井 (MOL) は、2022 年 9 月 8 日、子会社を通じて、新奥天然気股份有限公司 (ENN Natural Gas Co., Ltd) が 100%出資する ENN LNG (Singapore) Pte. Ltd. 社と新造 LNG 船 3 隻の長期定期貸船契約を締結したことを発表した。

インドの石油類・天然ガス省は、2022 年 9 月 30 日、2022 年 10 月から 2023 年 3 月期間の国産ガス価格 100 万 Btu 当たり 8.57 米ドルを発表した。大水深、超大水深、高圧・高温地域で生産されるガスの価格上限は 12.46 米ドルとされた。

豪連邦政府は、2022 年 9 月 29 日、東部 LNG 輸出者と、国内市場ガス供給を確保する新基本協定 (HoA) を締結したことを発表した。7 月、連邦競争・消費者委員会 (ACCC) は、2023 年国内市場 56 ペタジュール (PJ) のガス不足予測を示した。今回の発表では、LNG 輸出者からの新たなコミットメントで、2023 年国内市場向け追加 157 PJ (288 万トン) につながる、としている。資源相によると、政府が「今回、豪州国内ガスセキュリティ制度 (ADGSM) を発動する措置を実施する必要はない」。

豪北部準州 Mereenie プロジェクトのオペレーター Central Petroleum は、2022 年 9 月 15 日、Shell Energy 向けの 2025 年分のガス供給契約締結を発表した。Macquarie Mereenie Pty Ltd (MM)、NZOG Mereenie Pty Ltd (NZOG)、Cue Mereenie Pty Ltd が持つ既存 Mereenie ガス供給と合算して 3.65 PJs (67,000 トン) を供給する。

Chevron Corporation は、2022 年 9 月 29 日、Chevron U.S.A. Inc. (シンガポール支社) が、自社初のオフセットペアド (オフセット組み合わせ) LNG カーゴを引き渡したことを発表した。今回の発表は、Gorgon プロジェクトから台湾中油股份有限公司 (CPC) に引き渡されたこのカーゴの温室効果ガス (GHG) 排出は、カンボジア、インドネシア、ネパールの、高品質の自然に基づく、またエネルギー効率によるオフセットで完全にオフセットされるとしている。

豪 Woodside Energy Ltd、BP Developments Australia Pty Ltd (bp)、三菱商事・三井物産均等所有の Japan Australia LNG (MIMI) Pty Ltd (MIMI)、Shell Australia Pty Ltd、Chevron Australia Pty Ltd は、西豪州沖北 Carnarvon 盆地に、温室効果ガス評価許可 [G-10-AP] を獲得した。枯渇した Angel ガス田が含まれる。同合弁事業は、複数の工業より排

出されるカーボンの回収の事業性を評価する。

Woodside は、2022 年 9 月 15 日、Browse to North West Shelf (NWS) プロジェクトの最終環境影響評価 (EIS) を発行した。同プロジェクトは、沖合 Browse 盆地ガス田群からの原料ガスを、NWS プロジェクト Karratha ガス設備で処理するもので、生産容量は年間 1140 万トン (LNG、LPG、国内市場向けガス) である。

Woodside は、2022 年 9 月 15 日、自社、独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (JOGMEC)、丸紅、北陸電力、関西電力、東北電力、北海道電力が、豪州から日本への低排出燃料アンモニア供給チェーン確立に関する事業化調査に向けた共同研究協定 (第 2 段階) を締結したことを発表した。

Woodside は、2022 年 9 月 23 日、自国企業として初めて、Aiming for Zero Methane Emissions Initiative を締結したことを発表した。これを締結することにより、同社は 2030 年までに自社操業資産よりメタン排出をほぼゼロとすることにコミットする、と述べた。同イニシアチブは Oil and Gas Climate Initiative (OGCI) が主導する。

Shell は、2022 年 9 月、西豪州沖 Prelude 浮体 LNG (FLNG) 設備で、労働争議による停止を経て、LNG 積み込みを再開した。

豪 Santos は、2022 年 9 月 21 日、Barossa ガスプロジェクト関連掘削・仕上げ作業を対象とする環境計画の連邦洋上石油類安全環境管理局 (NOPSEMA) 承認を差し止めとする連邦法廷判断を受けた。この結果、掘削活動は上訴で覆るか、新たな環境計画が承認されるかのいずれかまでは、停止される。Santos は両プロセスを進める、と述べた。同社は Barossa ガスプロジェクトは 46% 完成している、と述べた。

Shell は、2022 年 9 月 5 日、マレーシア子会社 Shell Berhad (SSB) (80%、オペレーター)、PETRONAS Carigali Sdn Bhd (20%) が Rosmari-Marjoram ガスプロジェクト開発の最終投資決定 (FID) を行ったことを発表した。Rosmari-Marjoram ガス田群はサラワク州ピントゥル沖 220 km に位置し、沖合プラットフォームの動力は太陽光発電となる。PETRONAS LNG 設備にガス供給を確保することを意図している。日量 8 億立方フィート (年間 600 万トン) のガス生産は 2026 年開始見込み。

インドネシア Abadi LNG プロジェクト稼働開始は、2027 年から 2 年遅れる可能性がある、と規制機関 SKK Migas は 2022 年 9 月 22 日述べた。

豪 Santos は、2022 年 9 月 27 日、パプアニューギニア Kumul Petroleum より、PNG LNG プロジェクト 5% 持分の買い取りに関して、確定オファーを受けたことを発表した。

[北米]

米連邦環境保護庁 (EPA) は、2022 年 9 月 6 日、ガスタービンから放出されるホルムアルデヒドを制限する連邦大気汚染規則に関して、自社メキシコ湾岸 2 設備に適用除外を求める Cheniere Energy の申請を却下した。「EPA は、このタービン規則に適合するための特別サブカテゴリーについての Cheniere 要請を却下したが、大気汚染法適合を確保するため

同社、他社との協議を続ける」と EPA 広報担当者は述べた。Cheniere は、EPA 決定に賛同できないが、この排出規制に「適合できるソリューションを見出す」べく、規制機関と作業を続ける、と述べた。

Cove Point LNG LP は、容量日量 2000 万立方フィート（年間 15 万トン）を加える小規模機器に関して、連邦エネルギー規制委員会（FERC）に初期的な許可要請を行っている。この追加数量は、通常操業時のボイルオフガス（BOG）から回収・液化するものとなる。

株式会社 JERA・ドイツ Uniper は、2022 年 9 月 5 日、JERA Americas Inc.、Uniper Global Commodities S.E. ・ Uniper Global Commodities North America L.L.C. 間で、LNG および米国産クリーンアンモニアの調達・販売に係る共同検討の覚書を締結したことを発表した。JERA は、米 ConocoPhillips 社と協力し、米メキシコ湾岸で大規模に水素を生産し、クリーンアンモニアに転換して、自社および Uniper 社に供給することを検討している。

Kinder Morgan, Inc.（KMI）は、2022 年 9 月 27 日、Elba Liquefaction Company, L.L.C.（ELC）における 25.5%出資参加権を、未詳の金融買主に譲渡が完了したことを発表した。KMI とこの買主が、各 25.5%、Blackstone Credit が 49%を ELC にて持つことになる。

米連邦エネルギー規制委員会（FERC）は、2022 年 9 月 15 日、Tellurian 社のルイジアナ州南西部天然ガス需要および自社 Driftwood LNG 輸出プロジェクトに供給するプロジェクトの最終環境影響評価書（EIS）を公表した。Line 200、Line 300 建設・操業は、建設期間中にいくらかの環境影響をもたらす、と結論付けた。

Tellurian Inc. は、2022 年 9 月 19 日、計画していた 2027 年満期の 11.25%優先保証債券、同社普通株式購入権ワラント債で構成する証券の売り出しを中止したことを発表した。自社 LNG プロジェクトの資金調達には、出資者に支援を求めることとなる。同社会長はこの証券売り出しの中止で、ルイジアナ州 Driftwood LNG 設備の計画されていた 2026 年の稼働開始は難しくなる、と翌日 YouTube に掲載されたビデオで述べた。同社は、9 月 23 日、同プロジェクト資金調達に関して、出資参加企業確保を優先する方針に転換したことを発表した。その方針の一環として、2 件の売買契約解消等、LNG ポートフォリオへの柔軟性導入が含まれる。

Delfin Midstream Inc.、Devon Energy Corporation は、2022 年 9 月 5 日、長期液化容量および最終投資決定（FID）前の Devon による Delfin への投資を含む基本合意（HOA）を含む LNG 輸出パートナーシップに合意したことを発表した。本 HOA は、Delfin の最初の浮体 LNG 生産船舶の液化容量年間 100 万トン分の長期液化加工契約への枠組を提供する。

米連邦海事局（MARAD）は、2022 年 9 月 13 日公表の文書で、NFE (New Fortress Energy) の Fast LNG プロジェクト審査を 8 月 13 日付同社宛書簡で一時停止したことを確認した。同社からは、MARAD が自社応答に欠けているものに関して NFE に通知もしておらず、手続き停止期間を解除すべき、と要請した。NFE は従来、建設開始を 2023 年第 1 四半期、プ

プロジェクト第1段階の液化開始を同年夏までに開始することを計画していることを2022年4月に明らかにしていた。

NFE は、2022 年 9 月 20 日、来たる 11 月 2 日テキサス州コーパスクリスティ近くの Kiewit Offshore Services (KOS) 造船所で FLNG 投資家向け説明会を開催する計画であることを発表した。KOS 設備は NFE の Fast LNG 計画および海洋インフラストラクチャーを浮体液化設備に改造する作業の本拠地である。

米 Commonwealth LNG、豪 Woodside Energy 子会社 Woodside Energy Trading Singapore Pte Ltd は、2022 年 9 月 5 日、非拘束の基本合意 (HOA) を、2 日に 2 本の拘束力ある LNG 売買契約 (SPAs) に転換締結したことを発表した。Commonwealth のルイジアナ州キャメロン郡で開発中の LNG 輸出設備より、20 年間、年間 250 万トンの LNG 供給を対象とする。引き渡し開始は 2026 年半ばを見込む。

FERC は、2022 年 9 月 9 日、Commonwealth LNG 年間 840 万トン液化設備および関連書設備の最終環境影響評価書 (EIS) を、FERC 事務局が準備したことを発表した。EIS で提言されている緩和策を講じれば、若干の環境影響があるものの、その殆どは重大影響にならない水準に軽減される、と結論付けた。FERC 事務局は、景観資源と、環境正義コミュニティに重大な影響がある、と結論付けた。

米 Stabilis Solutions, Inc. は、2022 年 9 月 21 日、年間 517.5 億立方フィート (39.3 万トン) を 28 年間、自由貿易・非自由貿易諸国に輸出する承認を、米連邦エネルギー省 (DOE) から受けたことを発表した。

カナダ LNG Canada は、プロジェクトが 70%以上完成している、と述べた。出資者達は第2段階を検討している。

[中東]

ドイツ RWE は、2022 年 9 月 25 日、アブダビ Abu Dhabi National Oil Company (ADNOC) と LNG 供給、同国再生可能エネルギー企業 Masdar と洋上風力発電での協力に関して、契約を締結したことを発表した。ADNOC・RWE は、ドイツのハンブルグ近くの Brunsbüttel の 'Elbehafen LNG' 基地に供給する 1 カーゴの最初の引き渡しに関して、供給契約を締結した。Elbehafen LNG は、RWE がドイツ政府に代行して備船した浮体貯蔵・気化設備 (FSRU) 2 隻中、1 隻を運用する。このカーゴはアブダビのダス島から、2022 年 12 月末到着する見込み。さらに両社は、2023 年からドイツに引き渡される複数年 LNG 供給に関して覚書 (MoU) を締結した。

TotalEnergies は、2022 年 9 月 24 日、カタールの年間 1600 万トン North Field South (NFS) LNG プロジェクトの最初の国際パートナーとして選定されたことを発表した。NFS プロジェクトに、国際パートナーに配分される 25%中、TotalEnergies は 9.375%出資参加する。QatarEnergy は残り 75%を持つ。NFE (6.25%)、NFS 参加分を合わせ、TotalEnergies は 2028 年までに自社 LNG ポートフォリオに年間 350 万トンを加える。

TotalEnergies は、2022 年 9 月 16 日、パートナー企業とともにオマーンスルタン国エネルギー・鉱物省 (MEM) との間で、陸上第 11 鉱区の探査・生産物分与契約 (EPSA) を締結したことを発表した。TotalEnergies は同鉱区の 22.5%、OQ が 10%を持ち、Shell が 67.5%を持つオペレーターである。

[アフリカ]

ENI、bp は、2022 年 9 月 7 日、ENI が bp のアルジェリアでのビジネスを買い取ることを発表した。"In Amenas" "In Salah" (各 45.89%、33.15%) ガス生産鉱区を含む。2021 年両鉱区はガス 110 億 m³ (11 bcm)、コンデンセート・LPG 1200 万バレルを生産した。

Bechtel は、2022 年 9 月 8 日、Shell Egypt、EGAS、Petronas が、Bechtel を中心とする Enppi、Petrojet を含む連合体に、地中海 West Delta Deep Marine (WDDM) ガス田群の陸上ガス処理設備、アレクサンドリアの東 Idku の Egyptian LNG (ELNG) 輸出設備を統合しての電力システム構想を検討する作業の基本設計 (FEED) 契約を発注したことを発表した。

媒体報道によると、ポルトガル環境・エネルギー相は、ナイジェリアが予定通りの LNG を引き渡さなければ、ポルトガルは冬供給問題に直面する可能性がある、と述べた。Nigeria LNG Bonny Island 設備は、容量 60%で稼働している模様。

中国の中遠海运重工有限公司は、2022 年 9 月 13 日、自社の后东ヤードが、bp のモーリタニア・セネガル沖 Greater Tortue Ahmeyim FLNG 開発用の浮体生産・貯蔵・積み出し (FPSO) 設備の建造を完成したことを発表した。

モザンビークの財務相は、TotalEnergies が LNG 輸出プロジェクトに関する作業を再開する決定を 2023 年 3 月までにすることを楽観視している、と述べた。

[欧州・ロシア]

欧州連合 (EU) エネルギー閣僚理事会は、2022 年 9 月 30 日、高エネルギー価格対応の法案に政治的な合意に達した。本法案は、電力需要削減、エネルギー部門の超過利益を徴収し最終消費者に再配分する共通諸策を導入する。

Vopak・Gasunie 合弁事業 Gate terminal B.V は、2022 年 9 月 5 日、追加容量年間 40 億 m³ (4 bcm) の市場関心を測るべくオープンシーズンを開始、市場参加企業に非拘束での関心表明を求めることを発表した。

EemsEnergyTerminal は、2022 年 9 月 7 日、2 隻の FSRUs (浮体貯蔵・気化設備) とともにエームスハーフェンに到着した、と発表した。Golar Igloo (New Fortress Energy (NFE) が建造) は 9 月 4 日、Eemshaven LNG (Exmar 建造) は 6 日到着した。8 日最初の LNG 輸送船舶の到着とともに、建設段階が公式に開始した。同 LNG 基地は 11 月末・12 月初にも全容量稼働に至る見込み。同基地は 12 月 31 日までの期間に 18 カーゴ程度受け入れることができる見込みである。

ドイツ連邦政府は、2022 年 9 月 29 日、ガス価格上限実施のため、新たな国債として 2000 億ユーロの借り入れを行うことを発表した。政府がガス価格上限を設定し、その上限とガス輸入者が国際市場に支払う額との差分を支払う。

ドイツのネットワーク規制機関（Bundesnetzagentur）は、2022 年 9 月 5 日、優先順位に従いガス供給を削減することとなるレベル 3 ガス緊急事態で何が起きるか詳細を示した。エセンシャルな社会サービス（電力/水道/下水道、病院/医者、警察/軍/消防、学校）は最優先として保護される。他は供給削減を受ける可能性がある。

ドイツ Deutsche ReGas 社は、2022 年 9 月 20 日、Lubmin での LNG 基地建設を開始した。同社は、9 月 27 日、第 1 段階容量配分のための拘束力あるオープンシーズンを 10 月 10 日に開始することを発表した。同日、もう 1 隻 FSRU を要し 2023 年 12 月から容量が利用可能となる第 2 段階の非拘束オープンシーズンも開始する計画である。また同社は、2022 年 9 月 23 日、Macquarie Capital が Deutsche ReGas にマイノリティ出資を行う、と述べた。

豪 Woodside、ドイツ Uniper は、2022 年 9 月 5 日、Woodside が自社グローバルポートフォリオよりドイツを含む欧州に、2023 年 1 月より 2039 年まで LNG を供給する柔軟型長期売買契約を締結したことを発表した。年間 12 カargo（年間 80 万トン以上）を引き渡す。2031 年 9 月からの供給は、Uniper が北西欧州で長期容量予約を確定することが条件となり、これは 2023 年 3 月までに見込まれている。

ドイツ Tree Energy Solutions（TES）、E.ON、ENGIE は、2022 年 9 月 1 日、同国連邦経済・気候保護省（BMWK）により、自国 5 件目の浮体貯蔵気化設備（FSRU）方式の輸入基地共同開発に選定されたことを発表した。同基地は、2023 年暖房季節初頭に Wilhelmshaven にて年間輸入容量 50 億 m³ で運転開始を計画している。TES の水素基地開発は、本 FSRU プロジェクトにより加速される。TES は、FSRU 稼働開始から 12 ヶ月間以内に、グリーン分子の輸入統合を目指している。ENGIE は BMWK 代行しての FSRU 備船、LNG 供給の一部、TES と共同しての FSRU 開発・操業を担当する。5 年間備船の FSRU は Excelebrate Energy が提供する。TES は 2019 年から水素基地を開発しており、2025 年までに大規模輸入開始を目指す。TES 基地構造は、船舶用棧橋 6 本、陸上タンク 10 基で 2,000,000 m³ 貯蔵容量、天然ガス、水素、CO₂ パイプライン網との直接接続で構成される。

ドイツ Uniper は、2022 年 9 月 21 日、連邦政府、Uniper SE、Fortum Oyj が、7 月 22 日に発表した対策パッケージの修正に合意したことを発表した。パッケージは 3 要素を含む。連邦政府のみによる 80 億ユーロ増資、ガス賦課金、KfW 融資枠である。さらに連邦政府は現在 Fortum が所有している Uniper 株式を買い取り、持分比率が 99%となる。国有銀行 KfW は Uniper の流動性ニーズに応じて資金を提供する。Uniper は既に 8 月末時点で KfW 融資枠を 130 億ユーロに拡大している。Fortum が提供した 40 億ユーロ株主融資、40 億ユーロ保証枠は、連邦政府が Fortum 持分を買い取り後引き継ぐ。

ノルウェー Equinor、ポーランド PGNiG は、2022 年 9 月 23 日、ノルウェーからポー

ランドへ新規 Baltic Pipe にて輸送される年間 24 億 m³ (2.4 bcm) ・ 2023 年 1 月から 10 年間のガス売買契約を発表した。

フィンランド Gasum 社によると、グリーンピース活動家が、ロシア産 LNG 輸入に抗議して、2022 年 9 月 8 日、輸送船 Coral Energy のスウェーデン Nynäshamn LNG 基地への入港を阻んだ。地元警察が活動家達を現場から除外して、9 日に Coral Energy は同基地でカーゴを荷卸した。フィンランド Helsinki Times 紙によれば、Coral Energy は、9 月 19 日、ロシア Vysotsk から LNG を輸送して、フィンランド南東部 Hamina に到着した。Gasum は 2018 年以降ロシアから LNG を調達している。

スペイン Repsol は、2022 年 9 月 7 日、上流部門ビジネスに関して、米機関投資家 EIG と、25%持分を譲渡して提携することに合意したことを発表した。Repsol はこのビジネスの操業権を維持する。

スペインの環境・トランジション省によると、同国・フランス間のガスパイプライン容量は 15 億 m³ (1.5 bcm) 拡張され、合計 85 億 m³ (8.5 bcm) となった。

スロバキアのガス供給企業 SPP は、2022 年 9 月 8 日、ExxonMobil との間で LNG 購入の契約を締結したことを発表した。

ロシア Gazprom は、2022 年 1 月 1 日から 9 月 15 日、自社ガス生産が 3008 億 m³ (300.8 bcm) と前年同期比 15.9% (568 億 m³ (56.8 bcm)) 減となったことを発表した。非 CIS 諸国向け輸出は 848 億 m³ (84.8 bcm) と、前年同期比 38.8% (537 億 m³ (53.7 bcm)) 減となった。中国向けガス輸出は増加している。

ロシア Gazprom は、2022 年 9 月 2 日、Nord Stream パイプラインは、機器メンテナンス関連で、予定された 9 月 3 日にフローを再開しない、と述べた。同パイプラインの 9 月 26 日の損傷に関して、破壊活動が疑われている。

ロシア海運 «Совкомфлот» Sovcomflot は、2022 年 9 月 23 日、「Газпром нефть» Gazprom Neft とともに、ロシアで初の船舶間移送方式 (STS) による LNG バンカリングを完了したことを発表した。

ロシア連邦政府の 2022 年 9 月 6 日付指令によると、Sakhalin 2 プロジェクトで従来 Shell が有していた 27.5%を引き継ぐ基準は、容量年間 400 万トン分以上の LNG 生産プロジェクトを操業する経験を持ち累計生産が 4000 万トンを超えていなくてはならない。Shell は、ロシア連邦政府、および Sakhalin Energy Investment Company Ltd (SEIC) のパートナー企業に対して、Shell は新 LLC に出資せず、Shell は法的権利を全て留保していると伝えたことを確認している。

[南米]

マレーシア PETRONAS、アルゼンチン YPF は、2022 年 9 月 1 日、同国で統合型 LNG プロジェクト、その他分野で協力する覚書 (MOU) を締結したことを発表した。YPF、PETRONAS E&P Argentina S.A. は、Argentina Integrated LNG プロジェクトの検討・開

発に関わる共同検討開発協定（JSDA）を締結した。

TotalEnergies は、2022 年 9 月 19 日、アルゼンチン南部ティエラ・デル・フエゴ州沖 60 km の Fenix ガス開発の最終投資決定（FID）を承認したことを発表した。Total Austral 子会社を通じ、TotalEnergies は 37.5%を持ち同プロジェクト操業を担当、他参加企業は WintershallDea（37.5%）、Pan American Sur（25%）である。2025 年初に見込まれる生産開始時、Fenix は天然ガス日量 1000 万 m³（LNG 換算年間 268 万トン相当）生産することとなる。

[グローバル]

OIES の新たなペーパー "Greenhouse Gas Emissions from LNG Trade: from carbon neutral to GHG-verified" によると、カーボンニュートラル LNG は、次第にアジアの少数の取引に限定され、信頼性あり重要な環境基準とみなすことができない。カーゴは「温室効果ガスに関して証明を受けて」いなければならず、排出の測定、報告、実証方法を明示すべきであるとしている。

参考資料: 各社発表, Cedigaz News Report.

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp